



じしゅう どうこうさん
時宗 東岡山

福田寺だより



ホームページ



フェイスブック



Instagram

仏法を纏う

【写経会：10月23日 午後2時より4時まで受け付け】

ご参拝の際は、マスクの着用、体調確認のご協力をお願いします。

*京都府下に緊急事態宣言が出されていた場合は中止します。

お寺ではお盆、お彼岸と大きな行事が無事に終わりました。コロナ禍で何もかもが通常通りとはいきませんが、その中でも出来ることを模索していきたいと思えます。

さて少し前の事ではありますが、通っている書道教室で初めて条幅の作品を書かせていただきました。せつかなのでお経の言葉を書きたいと思い「袈裟被着偈」と呼ばれる20文字の偈文を選びました。次のような文言です。

だいさいげだっふく むそうふくでんね ひぶによかいぎょう こうどしよじゅう
「大哉解脱服 無相福田衣 被奉如戒行 廣度諸衆生」

意識すると「大いなるかな、解脱へと導く服よ、姿形にとらわれない悟りを実らせる福田に例えられる衣よ。謹んでこの衣(袈裟)を身に着け、仏法に従い持戒と修行に努め、広く衆生を悟りへと導こう。」となります。

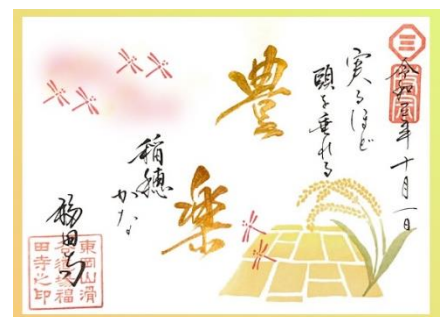
これは福田衣(袈裟)の威徳を称えた偈文で、私たち僧侶は法会の前や袈裟を身に着ける際にこの偈文をお唱えします。お分りの通りここに出てくる「福田」は当山、福田寺に冠せられる言葉でもあります。以前、お便りの中で福田寺の由来について書かせていただいたとき、「福田」とは“福が実る田んぼである”とお話させていただきました。水田に良い種がまかれれば良い稲穂が実るように、人間も善い行いをすれば福德が実るというお釈迦様の教えです。

袈裟を見ていただくと、たくさんの布が縫い合わされたような形をしているのが分かるかと思えます。全体を見れば田んぼのように見えてきます。お釈迦様は先ほどの福德が実る教えをこの袈裟に表されたのです。言い換えればこの福田衣(袈裟)はお釈迦様の教え(仏法)そのものである言うことができます。ですから袈裟は仏教では非常に大切なものとして扱われます。私が初めて本山に修行に行ったときは袈裟も法衣も何が何だか分からない状態でしたので、つい袈裟を直接畳に置いてしまい大変怒られました(お経の本も畳に直置きすることはいけません)。また、歩きながら袈裟をつけること、お手洗いで外さないこともご法度です。衣をまとっているというよりは仏法を纏っているような心構えをしなければいけません。一遍上人も“袈裟は「対ぶもの無き仏法を信じる心」を表している”と説かれました。

在家の方用には輪袈裟や折五条と言った袈裟もありますので、お持ちであれば仏様のように大切にいただき、ご法要の際など積極的に着用してみてもはいかがでしょうか。 合掌



彼岸施餓鬼法要の様子



十月限定御朱印